

平成21年度

第3回 武蔵野市男女共同参画推進市民会議録

日 時	平成21年11月20日(金) 午後7時～9時30分
場 所	武蔵野商工会館 第1会議室
出席者 (敬称略)	委員・・・栗原毅、静間俊和、千田有紀(副委員長)、高田素子(委員長)、 山田史野、若槻善隆 事務局・・・市民協働推進課男女共同参画担当職員
議 題	1 アクションプラン基本目標 についての検討 2 「第三次子どもプラン武蔵野(中間報告)」及び「武蔵野市生涯学習計画(仮称)(中間のまとめ)」についての検討 3 その他
議事要旨	<p>1 アクションプラン基本目標 についての検討</p> <p>2 「第三次子どもプラン武蔵野(中間報告)」「武蔵野市生涯学習計画(仮称)(中間のまとめ)」についての検討</p> <p>基本施策1 男女がともに担う子育てと介護への支援</p> <p>(1) 子育て支援策の充実</p> <p><担当委員からの発言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援施設のサービスの充実 待機児童を解消し、働きたい人にとっての足かせを外すのが一番だと思う。 そのためには、認定こども園、幼稚園を増やしてほしい。 ・子育て支援団体の育成支援と連携強化 武蔵野はNPOを有効に活用していると思うが、家庭の女性が何かアクションを起こせるようにするために、さらにここを強化していくというのは重要なことだと思う。 ・ファミリーサポート事業への支援と広報の強化 サービスを担う人材が増えないのは、何が問題なのかを見きわめて、強化すべきことではないかと思う。 具体策として、NPOや介護などへの参加により、自身または家族が介護や育児サービスで利用できる「(仮称)武蔵野チケット」がもらえる等の仕組みを創設する。(金銭的なものより、お金では買えない優先権など) ・保育ママ制度の拡充 待機児童解消の1つの手段だと思う。保育ママさんは責任の重さから、なかなか続けられないと聞いている。とても良い制度だと思うので、ぜひ増やしてほしい

い。免許所持などの基準はあるが、負担を軽くできるような方法を提案したり、武蔵野市だからこそもっと充実できるような気がする。

・病後児・病児保育の拡充

働き続ける上で必要な部分なので、NPOと連携するなどの形をとり、拡充に力を入れてほしい。

・保育・児童施設の機能の充実と待機児童の解消

新しく保育園をつくる上で公立にこだわる必要はなく、質を確保するということのほうが重要だと思う。

・ひとり親家庭の生活の安定と自立の支援

母子家庭に対してはいろいろ手厚い保護があるが、父子家庭に対する公的支援はない。少し考えておいたほうがいいのかと思う。

<各委員からの発言>

泉幼稚園跡地、西部地区の図書館の跡地、桜堤小学校の跡地は今後どのように活用するのか検討してほしい。

ひまわりママや保育ママは、何がネックになって事業が拡大していかないのかという現状の課題をとらえないと、どうしていけばいいのかが見えないと思う。

地域通貨は、現在市内の一部で使用している所があるので、今後はNPOも関わることにより介護や子育てでも使用できるようにするのが良いと思う。

病後児・病児保育は、NPOと関わっていくことも含めて早目に検討していただくのがいいと思う。

学童の課題は、時間の延長、土曜の開所、利用年齢制限を上げること、またスタッフの定着化をはかってほしい。

ひとり親家庭の相対的貧困率が圧倒的に高い。母子家庭だけでなく父子家庭も含めて、どのような支援が必要なのか検討されなければならない。

認定子ども園や幼稚園にしても、質を高めていくためにはどうしたらいいのかを考えていかなければならないと思う。

子どもたちにとって地域の中で育つことは大切なことで、公立の幼稚園、保育園、小学校、中学校へ通いながら子どもたちは地域の中で育ち、自然に地域性が身につく。喜んで通ってきてもらえるような学校を、学校も教育委員会もつくっていかなければならない。子どもを地域で育てると、お父さん同士のつながりもでき、お父さんとお母さんが互いに補い合うことができる。共働きでも困ったときに地域の人が助けてくれる。

認可保育園には質を落とさないように人の配置や床面積、園庭があるかといった基準がある。そこをきちんと保障した上で親が安心できる条件を整え、利用したい人がみんな利用できるような形にしてほしい。

民間保育園だから悪いという話ではない。国が定めた基準を満たして保育はやりましょうというところだが、それでは都市部はやり切れないから切り詰められてきている。だけど武蔵野としては、ぜひその基準は守り今後の施策を組み立ててもらえないかということを提言としては言えると思う。

きちんとした制度設計がされていれば、武蔵野市で子育てをしたいという人が転入して来て、子ども人口も総人口も増えて活気のあるまちになると思う。

保育ママに預けられるのは3才までなので、その後確実に保育園に入所できる保障がほしい。

幼稚園や保育園の時代が一番大事だということをわかってない方が多いと思う。小学校、中学校、高校と、とにかくいい学校へ行かせる事ばかりに一生懸命な気がする。我々大人は、市も含めて、もう一度振り返る必要があると思う。

子どもプランの15日の市民ヒアリングにおいて、プランの中に男女共同参画とか、男女平等という言葉を入れていただきたいという話をした。

女性の働き方もフルタイム、日に2～3時間、週に1日か2日と多様化しており、それに伴い託児のニーズも細くなってきている。そのためNPOを育てて、支援する人を支援していかなければならない。

女性の就労支援ということを考えると、出産をきっかけにした女性の離職率は7割。専業主婦がいきなり離婚してシングルマザーになった人の貧困率が高いので、継続就労の支援と保育の問題はとても重要だと思う。

女性に関する相談窓口は、いつでもそこに連絡をすれば相談できるというように一本化したほうが良いと思う。

15年位前から共稼ぎと片稼ぎというのは完全に逆転していて、社会進出という聞こえはいいが、共稼ぎでないやっつけられない状況というのが確実に生まれてきている。責任を持った保育を行なう認可保育園をつくってほしい。

学びの成果の共有、共助につながる学びというのは男女共同参画社会にとっても大きなキーワードである。

生涯学習は単なる学びではない。地域の中で地域を支える人たちを育てていけるような力のある生涯学習にしてほしい。

(2) 介護する家族への支援

<担当委員からの発言>

- ・介護保険・医療・福祉の連携による介護サービスと生活支援の充実
- ・介護に関わる人材の養成と確保

今後は、介護する人がいても働けるような環境をつくっていく必要性が高まるだろう。そのためには人材育成や養成、確保などを今からやっておいたほうが良いと思う。

<各委員からの発言>

循環型社会というのがある。年寄りが保育ママのようにして子どもを育て、年寄りには将来介護してもらい、独居老人になれば見守りも必要になってくる。それらがうまく社会や地域の中で循環できるようになっていったら良いと思う。

(3) 男性の育児・介護への参加の促進と男女共同参画の視点に立った意識啓発の強化

<担当委員からの発言>

- ・男性の育児・介護休業の取得に向けた啓発・支援と企業への働きかけ
- ・男性向けワークショップなどの実施と活動・学習グループなどへの支援
- ・ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた情報提供

啓蒙活動というのは地道にやるしかないが、実際に参加し、活動してみてももしろいと思った人は以後プラスの方向に動くので、そこはもう一歩巻き込むことが必要なんじゃないかなと思う。

<各委員からの発言>

男性の育児・介護への参加は、平日朝から晩まで働いているという社会構造全体が変わっていかないと難しい。男性が土日に相談できる窓口の仕組みを作ることで、男性が公的機関やサポート機関につながり、人がつながっていく。

地域で男の人が一番参加しやすいのは防災で、そこに女性も参加して交流が広がるのがよい。また、子どもの見守りなどを通じ男性の地域参加が少しずつ広がっていけばと思う。男女共同参画だけでなく、コミュニティ施策のようなことと連動して、コミュニティに働きかけていくことが必要ではないか。

基本施策2 女性の就労とチャレンジ支援

(1) 起業支援と再チャレンジへの支援

<担当委員からの発言>

- ・再就職支援セミナーの実施・情報提供

セミナーの実施・情報提供などを継続実施しますというアクションプランになっているが、起業したいと思っている人たちにとっては、例えば無担保で100万円貸してくれるとか、スペースを貸してくれるなどのほうが必要ではないか。市のアクションとしてそういうことができるか。

- ・就職・再就職に関する情報収集・提供や支援
- ・地域に根ざした起業・就労・地域支援に関する情報の提供や育成支援

NPOで人が足りないのであれば、再就職の第一歩としてNPOで活動してもらうことも就労支援になり、良いのではないかなと思う。

<各委員からの発言>

女性の起業家が集まれるインキュベーションオフィスのようなものがあるといい。セミナーだけではなく、女性が再就職するために活用できる国の助成金や補助金があるという情報を提供したり、人間的にかかわって一歩押してあげることが必要。我々はあまりお金をもらわずに支援しているが、ある程度の収入を得ながらやっていかないと長続きしないと思う。

基本施策3 男性の地域参加の促進

(1) 各種講座や「まなこ」などを通じた啓発活動ときっかけづくり

<担当委員からの発言>

- ・男性の地域活動について
- ・きっかけづくりの情報提供とバックアップ

意識改革が大事だと思うので、地道に情報発信をしていく必要がある。その上で、さらに男性たちを巻き込むような方向（仕組みづくり）も考えたい。

<各委員からの発言>

生涯学習のほうでは、「ヒューマン・ネットワークセンターについて、男女共同参画を推進する生涯学習の拠点である」ということを書いていただきたい、というパブリックコメントを出した。

基本施策4 企業の地域貢献の推進

(1) 地域企業に対する啓発と取組みへの働きかけ

<担当委員からの発言>

- ・育児・介護休業制度の企業への普及の推進
- ・ファミリー・フレンドリー企業の表彰制度の検討

いろいろな情報を提供しますというのが有効なのか疑問に思う。

<委員長>

「第三次子どもプラン武蔵野(中間報告)」「武蔵野市生涯学習計画(仮称)(中間のまとめ)」のパブリックコメントについては、たたき台を作り皆さんに送りますので、ご意見があればメールで出してください。

今回は基本目標 と について、担当委員の方を中心にお話しいただきます。要望書や意見書はメールでお送りください。よろしくお願いたします。

次 回

平成21年12月21日(月) 19:00 ~
武蔵野商工会館 第1会議室